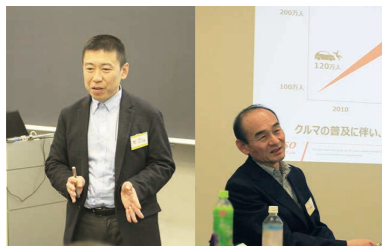


2020.2.14(金)

受付開始
12:30~

講演+ディスカッション 13:00~17:00 懇親会 17:00~19:00

開会、各企業より講演



グループディスカッション



懇親会



東京電機大学 (東京千住キャンパス)

1号館 2階 セミナー室1204

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番

- 北千住駅 東口(電大口)から徒歩1分
JR常磐線/東京メトロ日比谷線/東京メトロ千代田線/
東武スカイツリーライン(東武伊勢崎線-東京メトロ半蔵
門線乗入)/つくばエクスプレス
- 京成関屋駅から徒歩7分
京成本線



申込方法 (インターネット)

参加無料 先着50名 普段着スーツNG 履歴書不要

「キャリアビジョン研究会」WEBサイトにアクセスし、手順に従ってお手続きください。 >> <https://pwel.jp/articles/58>

STEP 1 ↓

インターネットにてエントリーしてください。

STEP 2 ↓

エントリー完了メール(受講票)の受信を、ご確認ください。

STEP 3 ↓

受講票をご持参の上、会場受付までお越しください。



個人情報の取り扱いについて

主催者は、個人情報の重要性を認識し、個人情報の保護に関する法律及び関連法令等を厳守し、主催者の個人情報保護方針に基づき、個人情報を取り扱います。



お問い合わせ

一般社団法人 日本パワーエレクトロニクス協会
キャリアビジョン研究会事務局 (担当: 平元) ✉ info@pwel.jp
神奈川県横浜市西区花咲町 6-145

学生 × パワエレ技術者

座談会

フラットな
交流会です
スーツNG
普段着で
お越しください



パワエレに
フォーカスした話が
聞けます



一つの質問に
複数のエンジニアが
回答します



聞きづらいことは
スマホで
質問できます

参加エンジニア

株式会社デンソー

三菱電機株式会社

サンケン電気株式会社

Mywayプラス株式会社

ダイキン工業株式会社

株式会社本田技術研究所

モータ・パワエレを学ぶ学生様向け キャリアビジョン研究会 学生 × パワエレ技術者 座談会

講演者プロフィール



藤網 雅己

株式会社デンソー
技術企画部 技術・担当部長



経歴

1980年にデンソーに入社。専門はパワエレやモータ制御など。EVの制御装置、EPSなどの操舵系制御装置などのパワエレコンポーネントや、トランスミッション(AT・CVT)制御、車両総合制御などのシステム制御に関する先行開発に従事。マネジメント面では、自動車の電動化をリードするためパワエレ分野の先行開発部隊を立ち上げ、事業部、大学などの社外研究機関と一体となり新しい技術開発を行った。現在、自動車の電動化分野に関する新しいテーマ企画と技術系人材育成を主にやっている。

デンソーは、先進的な自動車技術、システム・製品を提供するグローバルな自動車部品メーカーです。我々は、自由度の高いMobility・流通手段としての価値、乗る楽しさやうれしさ、手にする喜びを提供し地球と生命を守りつつ、次世代に明るい未来を届け続けなければなりません。これに必須な技術の一つがパワーエレクトロニクスです。パワエレの自動車への適用は、車を電動化しCO2排出量を大幅に削減しつつ、高い制御応答性で自動運転など新しい価値を生み出します。自動車業界は、今100年に一度の大変革の時代に入っています。皆さんの持つ“無限の可能性”をこのパワエレ分野で発揮してみませんか。我々と一緒に“学び、自ら考え、Connected, Autonomous, Shared, Electricを合わせた新たな価値の実現”に向け挑戦し続けていきませんか。

井上 正哉

三菱電機株式会社
姫路製作所モーター製造部 部長



経歴

1967年神戸市出身。1992年に北海道大学大学院原子工学専攻(研究テーマ:MHD発電)を終了。同年、三菱電機中央研究所(現先端技術総合研究所)に入社。磁界解析・計測をキー技術として、回転式・リニア式の各種モータから変圧器やパワエレなど多岐にわたる電気機器の開発業務に従事。2002年から2003年にシェフィールド大学に留学。2010年から姫路製作所に異動。ハイブリッドカー、EV用のモータ研究開発・設計・製造を推進中。

環境規制・地球温暖化によって、世界的に自動車の電動化は急速に進み、今後も大きく変わろうとしています。そのため、モータ・パワエレの研究経験を持つ人材もより多く必要となってきています。自動車用モータは用途毎に最適設計が変化し、過酷な環境で使われ、量産性、安全性、コスト、寿命などの様々な要求を満たすことが必要となります。また、生産設備、素材、加工などの色んな分野の専門家、メーカーと協力することも必要で、チーム力、総合力が問われます。苦労も色々ありますが、製品化できたときの注目度は高く、皆で創ったモータを実際に運転して感じることもできますので、モノづくりとしてのやりがいや、喜びもとても大きなものがあります。幸いにも、磁石、電磁鋼板、電線などの素材技術や、工場の団結力・現場力も強く、モータをやる上で日本はととても恵まれた国です。今回の研究会で、車載モータの魅力や語ってみたいと思います。モータ・パワエレ技術を通じて、将来の環境問題そして、日本の基幹産業である自動車業界の発展に係っていただければと願っています。

加藤 康司

サンケン電気株式会社
パワーシステム本部パワー技術統括部第2技術部
チームリーダー



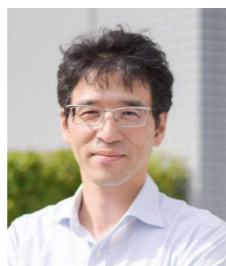
経歴

2011年サンケン電気入社。専門は電力変換。系統電力平準化装置や蓄電システム、UPSなど電源に関する研究から製品開発まで幅広い分野に取り組む。現在は大型UPSの研究開発を行い、新製品のリリースに向けて日夜奮闘中。

サンケン電気は東証一部上場、電子部品業界、中堅企業です。埼玉県新座市と埼玉県川越市を技術開発拠点として、パワー半導体や電源機器の研究・開発・設計・製造を行っています。パワー半導体は車や家電など、電源機器は携帯電話などのインフラに使われており、あまり一般的には知られていませんが、緑の下の力持ちとして知る人ぞ知る会社です。講演では、社会インフラを支える中堅メーカーのパワエレ技術者として、エコと省エネなどパワエレが地球環境や社会貢献できるやりがいや楽しさなどについて、お話ししたいと思います。

松野 知愛

Mywayプラス株式会社
PEネット部 執行役員



経歴

工学部電気工学科卒業、在学中は非線形負荷インバータ回路の数値解析をテーマにプログラミングに没頭。ITブームに乗って富士通に入社し日本および米国にて通信機器設計に携わり、その後、並列プロセス開発ベンチャー、カスタマイズDSPツール企業を経て、現在Mywayプラスにてパワエレ開発ツール部門を統括。これまでの全キャリアを活かしてパワエレとデジタル技術の融合によるイノベーションを目指す。趣味は自ビル造りとスキー、中学・高校の息子とは毎年恒例の家族スキーで張り合っとうにか威厳を維持する。

これからは、「プロフェッショナル」であることが求められます。どんなに立派な企業に入社しても、ひとりひとりの個としての価値が求められます。これまで大企業やベンチャー、外国企業など様々な企業での経験を踏まえて、プロの生き様を紹介します。また、就活のポイントから、入社後に実際にどのようなスキルをどのように身につければ良いのかなどのヒントも満載。規模は小さくても業界の一隅を照らすMywayがどうやって「プロエンジニア」を育てているのか、先輩たちの実例を紹介しながら解説します。これをきっかけに「プロ」へのキャリアの第一歩を踏み出してください!

小林 直人

ダイキン工業株式会社
テクノロジー・イノベーションセンター TI戦略室
技術戦略担当課長(東京大学駐在)



経歴

2002年にダイキン工業株式会社に入社。専門はモータドライブ。学生時代からセンサレス制御の研究に取り組み、入社後は、空調機向けのファンモータや圧縮機のモータドライブについて研究から製品開発まで幅広く従事。2015年、新設されたテクノロジー・イノベーションセンター(TIC)インバータ技術グループに異動。2019年より東京大学に駐在し、モータ・インバータを含む全技術領域において共同研究テーマの探索と共同研究戦略の立案に取り組む。

1924年に大阪で創業して以来、ダイキンは今、空調事業を中心に、世界150カ国以上で事業を展開しています。社会や地域が抱える課題の解決、そして、事業の成長。この2つの両立で人々の健康と快適を支え、空気と環境の新しい価値を創るグローバル企業として、世界中の期待と信頼に応え続けていきます。豊富な空調ソリューションでお客様に快適な空間を提供する空調事業は、住宅やオフィスなど身近な生活空間から、工場や空港といった大空間、また、病院や厨房のような特殊な空間に至るまで、全世界のあらゆる風土に合ったあらゆるニーズに答えています。日本で初めて造船メーカーやエンジンメーカーの潤滑装置を手がけて以来、世界の産業発展に貢献し続ける油機事業は、空調で培った省エネ技術を応用し、機械の高精度化、静音性の向上、小型化をテーマに、環境に配慮した油圧ポンプや油圧ユニットなどの開発・生産を行っています。モータ・パワエレを学ぶ若い皆さまとお会いできるのを心待ちにしております。

中村 弘道

株式会社本田技術研究所
オートモーティブセンター 第4技術開発室第2ブロック
主任研究員



経歴

2002年 理工学研究科電子物理工学修了。電機メーカー入社し、人工衛星用電源系システムの開発から「パワーエレクトロニクス」の世界に飛び込む。2006年Hondaへ中途入社。以来、車載パワエレ製品とそのシステム開発に取り組む。現在は、FCEV・PHEV・EV等、xEVICに向けたE-DRIVEコンポーネント・システム研究グループリーダーとして10数名の部下と共に、新たな電動車のためのパワエレ研究・開発を推進。趣味は、水泳・スキー・子供との各種展示めぐり。

Hondaは、「Power of Dreams」をコーポレートスローガンに、世界にモビリティを通じた新しい喜びを提案してきました。2030年に向けては、2輪、4輪、マリナー、パワープロダクツ、プライベートジェット、ロボティクスの幅広い製品群で、すべての人に、生活の可能性が広がる喜びを提供し、世界中の一人ひとりの「移動」と「暮らし」の進化をリードすることを目標としております。そのなかで、パワーエレクトロニクスという技術領域は、新しいモビリティの提案に対してキーテクノロジーとなっています。また総合モビリティメーカーがあつた「パワーエレクトロニクス」という技術領域は、応用分野が幅広く・技術的にも奥深いです。私の体験してきた研究開発事例等をベースに、Hondaでパワエレ技術に取り組む、未来のモビリティを創っていく姿を想像してみませんか?